

「事業名:リスク・コミュニケーション工学を活用した復興学による浪江町創成 Ⅲ
～イノベーション・コースト構想の実現に向けて～」
2020年度補助事業の実績・成果

東京工業大学 連携市町村:浪江町

連携市町村との協定締結日:平成30年10月23日 現地拠点:双葉郡浪江町役場(3階)

事業のポイント

東京工業大学「復興学」の3年度にわたる研究・教育成果のとりまとめとともに更なる深化と国内外への発信を行い、一部地域の避難指示解除から約3年経過した浪江町の新たなる地域ニーズを発掘・整理し、研究者ネットワークの拡充、小中学生・大学生等の教育プログラムの実施、産業振興の芽の創成・開花を目指した活動を行う。

今年度の活動実績

- 前期・後期「復興学研究発表会(リスク・コミュニケーション工学研究会)」の実施
- 文化教室「なみえの台所」の実施
- 産学連携フォーラムの実施
- リスク・コミュニケーション工学の学術基盤研究の推進
- 復興学に関わる日台シンポジウム、日本・カザフスタン国際シンポジウムの実施
- 福島大学の研究者と連携してMCF(Magnetic Compound Fluid)を用いた新しいロボット用センサの開発研究
- 除染科学として地域の環境回復手法の調査・検討
- 「福島復興学」の実学として社会試験すべき産官学共同事業の可能性の調査
- 新型コロナウイルスの影響を考慮しつつ、大学等研究者間連携ネットワーク形成の推進
- 学内講義、国際会議、学会論文誌などで、本事業活動で得た研究・教育成果の一部を国内外へ向け発信



文化教室なみえの台所開催
(なみえ創成小学校・中学校・
オンライン併催)



現地フィールド試験

今年度の成果

2020年度は浪江町と連携して、前期・後期「復興学研究発表会(リスク・コミュニケーション工学研究会)」、文化教室「なみえの台所」、産学連携フォーラムなどの現地活動をオンライン併催にて実施した。また、復興学に関わる日台シンポジウム、日本・カザフスタン国際シンポジウム、学内講義、国際会議、学会論文誌などで、本事業活動で得た研究・教育成果の一部を国内外へ向け発信し、東京工業大学「復興学」の3年度にわたる研究・教育成果のとりまとめとともに更なる深化と国内外への発信を行い、一部地域の避難指示解除から約3年経過した浪江町の新たなる地域ニーズを発掘・整理し、研究者ネットワークの拡充、小中学生・大学生等の教育プログラムの実施、産業振興の芽の創成・開花を目指した活動を行った。本年度に得た知見は2021年度以降の活動に寄与する。



復興学研究発表会(リスク・
コミュニケーション工学
研究会)